

災害に備える



毎年、地震などの自然災害が全国各地で発生しています。災害による被害を最小限に抑えるためには、一人一人が日頃から備えておくことが大切です。この連載では、家庭でできる防災の取り組みを紹介。いざというきのために、できることから始めましょう。

このページに関するお問い合わせは、危機管理対策室 ☎211-3062

第2回

家族防災会議

—災害時の行動を話し合おう—

災害時の行動や注意点を、家族全員で確認しておく、万一のときも冷静に対応することができます。年に一度は、家族で災害時を想像して、話し合ってみましょう。

1 自宅の安全点検



家具は固定するか配置を工夫

地震の際、大型の家具や家電は、思わぬ凶器になります。特に寝室では、家具の転倒方向には寝ない、たんすは壁や天井にしっかり固定するなどの対策が不可欠です。

非常用品を準備

電気やガス、水道が止まっても生活できるように最低3日分の水や食料を備蓄し、懐中電灯や救急セットなども用意しましょう。

主な非常持ち出し品

再確認!

- 飲料水・食料
- 懐中電灯 携帯ラジオ
- 救急セット 常備薬
- 衣類(下着など)
- 現金・貴重品
- 防寒具 乳幼児用品

2 避難に備える

家族の集合場所や避難場所を決めておこう

自宅が被災したときの、家族の集合場所(親戚宅など)や避難場所を決めておきましょう。また、安全な経路を確認するために、そこまでの道のりを実際に歩いておくとう安心です。



避難場所は、区役所、消防署などで配布している「地震防災マップ」やホームページ(下記)で確認できます



緊急カード

作ってみよう!

家族それぞれ作って携帯しましょう

<緊急カードの例>

氏名 _____
 住所 _____
 電話 _____ 血液型 _____ 性別 _____
 生年月日 _____
 勤務先(学校)名・電話 _____
 保護者・家族氏名 _____
 親戚などの電話 _____
 病歴 _____
 病院名・電話 _____
 健康保険証No. _____
 避難場所① _____ ② _____

3 安否確認の方法を決める

災害用伝言ダイヤル(171)などの連絡手段を決めよう

災害時は被災地への通信が集中して電話やメールが繋がりにくくなることも。そうしたときにサービスが開始され、安否確認に役立つのが「災害用伝言ダイヤル」です。

・携帯電話などから利用する場合は、あらかじめ契約事業者にご確認ください。
 ・インターネットから伝言情報を登録・閲覧する「災害用伝言板」のサービスは、「web171」(<https://www.web171.jp>)のほか、携帯電話各社で実施しています。

災害用伝言ダイヤルの使い方

●伝言を伝えたいとき

171 → 1 →

被災地の方の固定電話の番号 → 録音

みんな無事に
□□へ避難
しています



●伝言を確認したいとき

171 → 2 →

被災地の方の固定電話の番号 → 再生

みんな無事に
□□へ避難
しています

